



「学校-家庭-地域」 共に取り組む環境教育

- 活動時期 → 毎日
(9~11月はキャンペーン期間)
- 活動場所 → 小学校(+各家庭)
- 主な活動メンバー
子ども+教職員(+保護者の方も)

(取り組み内容)

◆ビオトープの設置

学校にビオトープを設置し、子どもたちが自由に生き物を観察できる場を作ることで、子ども達の感性を育てる環境教育につなげている。

【ビオトープができるまでの流れ】

①資金づくり

補助金 50 万円と学校の予算を足して整備。
(太陽光発電も補助金 25 万円で設置)

②教職員の理解を得て、学校全体として取り組む。

③子ども・PTA・地域住民とともにつくっていく。

④ビオトープ設置工事

⑤整備作業も子ども・PTA・地域住民とともに。

⑥継続

【来年度の予定】

来年度は、運動場に溜まった雨水を地下のプールに溜め、その水をビオトープに供給することを計画している。
また、太陽光発電パネルを 1 枚取り付け、その力でビオトープに酸素を送るようにしている。

【取り組みの成果】

- ・ビオトープを通じて、子どもたちが生き物とのふれあいを楽しみにし、環境への意識が高まった。
- ・取り組みがテレビでも取り上げられることにより、保護者や地域の方々への理解が深まり、協力体制ができてきた。



ビオトープの完成記念式典



設置した太陽光パネル

(うれしかったお話)

・子どもたちが関心を持ち、自主的に調べ実践につながっていったとき！

◆電気・水道の節約

毎年、学校をあげて電気、水道の節約に努めている。

- ・教室から他の教室等へ移動する時は、必ず電気を消す。
- ・廊下の電気は、必要な時以外は消す。
- ・蛇口をしっかり締める事を徹底する。
- ・掃除の時は、バケツに貯めた水で雑巾等を洗う。
- ・給食時にあまったお茶も掃除に利用する。

【取り組みの成果】

- ・電気・水道の無駄をなくしていこうという意識が高まり、実践につながっている。

◆牛乳パックのリサイクル

給食時に出る牛乳を飲み終えた後、パックを開き、専用のケースに集めた後に水できれいに洗いリサイクルへ。

【取り組みの成果】

集まったパックはトイレトーパーと交換してもらっている。



裏山でピオトープにまく枯葉や土を採取
種子の発芽で裏山の植栽再現がねらい。



みんなで作業。完成まであと一歩

◆取り組みを進めるためのポイント

- ・こんな風にしたいという想いに対して周囲に賛同してもらい、一緒に進めていく仲間をつくる。
- ・一人では出来ないため、子ども・教職員・保護者・協力してくれる方との輪を広めて取り組む。
- ・良いものが出来たら「一緒にやろう」と賛同者を増やしていく。

◆県民の皆さんに一言

学校で行っている取り組みは、家庭や地域でもいっしょになって取り組むことがたくさんあるので、豊かな自然環境を守り育てていく大切さを理解し一緒に取り組んでもらいたい。

(平成22年1月現在)